

フロンティア精神

今年、11月に国道36号札幌・千歳間一通称「弾丸道路」が開通して50周年目を迎える。昭和27年10月に着工し、延長34.5kmもの区間を僅か1年余りで完成するという驚異的なスピード工事が由来となって「弾丸道路」と呼ばれ、当時の新聞は「道土木史に金字塔」と称賛した。米国駐留軍の要請によって行政協定道路事業として実施されたものであったが、戦後の北海道復興の象徴として今日まで道央圏の発展を支える幹線道路としての役割を果たしてきた。この工事では、寒冷地特有の問題に対して様々な新しい技術やアイデアが積極的に試行された。理論的な凍上対策などが取り入れられ、北海道における舗装工学の基礎を築いた。さらに特筆すべき点は、当時日本ではコンクリート舗装が一般的であったが、このような大規模事業を短期間で完成させるため、アスファルト舗装技術の本格的導入や大規模な機械化施工によって、近代的道路建設の先駆けとなった。その技術と経験は日本の高速交通時代の幕開けとなった「名神高速道路」の整備に引き継がれていき、コンクリート舗装からアスファルト舗装への転換に画期的な役割を果たした。

北海道は開拓の歴史の中でフロンティア精神が培われてきた地域である。今年、開通50周年を迎えるにあたり、このような優れた先輩エンジニアのフロンティア精神をもう一度思い起こしてみよう。最近、暗い話題が多い北海道であるが、今こそ道内での課題解決に留まらず、寒冷地技術開発を通じて全国さらには海外に発信していけるような新たなチャレンジが求められているのかもしれない。

(維持管理研究室長 岳本 秀人)

* * * *

表紙右上記号 ISSN 1346-6747の説明

ISSNはInternational Standard Serial Number(国際標準逐次刊行物番号)の略で、逐次刊行物に付与される国際的なコード番号で、ISSD(国際逐次刊行物データシステム)という組織のもとで逐次刊行物の組織や検索に利用されます。

この番号は国立国会図書館ISSD日本センターから割り当てられたものです。